

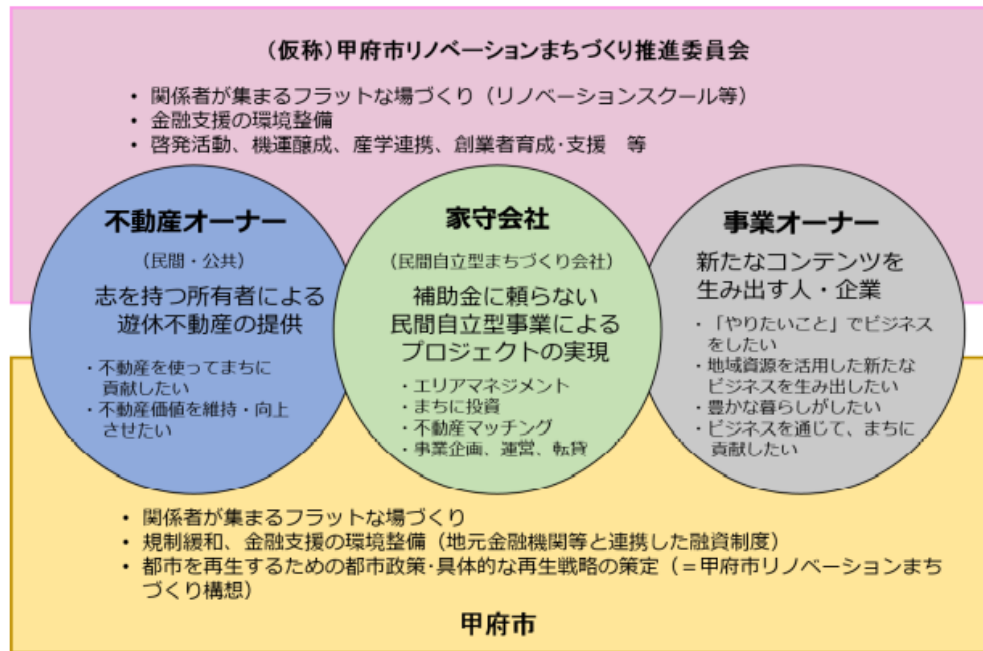
まちづくり他都市事例

- 出典
- ・甲府市ホームページ
 - ・津屋崎ランチホームページ
 - ・一般財団法人地域活性化センター

甲府リノベーション構想

家守会社（民間自立型まちづくり会社）

山梨県甲府市（合同会社まちづくり甲府）



民間主導の公民連携による切れ目ない
持続可能なまちづくりへの転換

- 「家守」とは江戸時代に不在地主に代わって長屋を管理する役割を担っていた人。家守は役人の手が回らない公用・町用も行っていた。
- 江戸の町人によるマネジメントの仕組みである「家守」を現代に取り入れ、都市活動が衰退したエリアで、空き家・空き室・空き店舗などの遊休化した不動産を活用して、その地域に求められている新しい産業を創り、その担い手たちがオフィスを構え、まちに住むことで、まちが活性化する。

「本当の暮らし・働き方・つながり」を実現する、進化する地域おこしプロジェクト

福岡県福津市（津屋崎ランチ）



2009年に福津市の「津屋崎千軒を核とした移住・交流ビジネス化業務」をきっかけに開設されたまちおこし団体。

- (1) 移住支援
- (2) 古民家再生
- (3) 起業支援
- (4) 対話支援

を活動の主柱に、地域の活性化に取り組んでいる。移住支援では、ホームページでの積極的な情報発信も行っている。対話支援では、地元住民と移住者、子供達と親世代などが垣根を越えて集い学び合える場を設けている。

遊子川産トマトを活用した特産品開発 ～トマトで気づく(築く)地域の魅力～

愛媛県西予市（遊子川地域活性化プロジェクトチーム、企業組合遊子川ザ・リコピンス）



開発した特産品



リコピンスの皆さん

遊子川地域は、昭和60年頃の2割にまで減少し、その住民も8割が50歳を超え、地域の危機を感じた住民による勉強会が始まり、平成23年に地域住民全員による地域づくり組織「遊子川地域活性化プロジェクトチーム」が結成された。

プロジェクトチームでは、地域農産物の需要拡大の特産品開発や外から人を呼び込む活動が企画され、オリジナルのトマト酢から作るトマトユズポンは海外からも注文が届いている。「食堂ゆすかわ」では、これら特産品を使ったメニューを提供し平成30年には3600人超が訪れている。

食堂の人気や開発した特産品の好調な売り上げを受け、特産品開発班は「企業組合遊子川ザ・リコピンス」として平成28年に法人化された。

医療介護福祉の視点から地域活性化と安心して暮らせるまちづくり

茨城県常陸大宮市（医療法人博仁会）

医療法人博仁会では、“子どもから高齢者、障がい者や障がい児が安心して暮らせるまち”をめざし、職員有志による地域活性化プロジェクトチーム「フロイデDAN」を発足。法人所有のハードを活用しながら人と人の交流などを生み出すソフト事業を担っている。

空き地に住民が使えるコミュニティスペースを開設し、夏休み期間中は週1回「みんなくる塾」として開放している。地元小学生が集まり、高齢者が特技を生かして習字や木製貯金箱の作成を指導する等、高齢者の活躍の場所づくりにもなっている。



みんなの憩所



みんなくる塾



地域資源を活かした独自のヘルスツーリズム

大分県豊後高田市（パーフェクトビーチ・里海ヘルスツーリズム推進協議会）



宿泊施設となるキャンピングトレーラー



長崎鼻の高オレイン酸ひまわりオイル



SUPヨガ



地元食材を活用したヘルシーメニュー

海洋療法（タラソテラピー）と温泉療法のノウハウを導入することで、「海」「温泉」「健康食」などの小規模な地域資源を新たな視点で統合させ、豊後高田市オリジナルの複合型ヘルスツーリズムの確立をめざす「パーフェクトビーチ構想」

国の地方創生推進交付金を活用し、ビーチの付加価値を高めるハード事業及びソフト面でのタラソテラピー事業に着手。キャンプ場客数は令和元年度では、平成27年の40%増となっている。

村地域の文化やあるものを活かした 「ひと」と「まち」の交流

群馬県高崎市（NPO高崎やる気堂）

『人と時代をおもてなし』をコンセプトとして活動。高崎市もてなし広場で毎月第4日曜日朝から開催する「人情市」やナイトシアター等各種イベントの企画・運営・開催のほか、地域のお祭りや各種イベントにも参加し、また子供の健全育成や環境保全を図る活動も行う等、イベントや講習会を通じて「ひと」と「ひと」、「ひと」と「まち」の交流を活発にし、活力のあるまちづくりをサポートしている。



生パスタ教室の様子



ナイトシアターの様子



手作りパン焼き

まちじゅうが「屋根のない博物館」

山口県萩市（NPO法人 萩まちじゅう博物館）



地域おたからマップ



萩古町による紙芝居の様子



古地図を片手にぶらり萩あるき

まちじゅうがまるで博物館のよう
な萩のまちを次の世代に引き継ぐた
め、萩のまちを屋根のない博物館と
見立てて、まちじゅうに点在する
「おたから」を保存・活用する取り
組み。

「おたから」をデータベース化し、
地域内外の人と共有するほか、見所
やまち歩きコースをマップ化し地域
おたからマップを作成。

まち歩きには、「古地図」を片手
に歩く、「まち歩きツアー」もある。

村のお母さんたちが作るロストマトを活かした地域ブランド ～トマト産業ですべての人が活躍できる地域へ～

高知県日高村（NPO法人日高わのわ会）

日高村では昔からトマトの生産が盛ん。昭和58年に高糖度トマト「シュガートマト」が誕生

平成14年3月に子育て中のお母さんたちが集まり「私たちのできることで何か世の中に役立つことがないか」と住民有償ボランティアグループ（現在の「日高わのわ会」）を立ち上げた

わのわ会が農家の収穫作業を手伝う中で、廃棄されるトマトをもったいないという思いからトマトソースに加工。最近ではクラウドファンディングを活用し商品開発。トマトが新たな付加価値を生み、村の活力につながっている。



ブランド商品例① トマトソース



日高わのわ会事務局長 安岡千寿氏

防災ガール～未来をつくる新しい防災～

東京都文京区（一般社団法人防災ガール）

「防災があたりまえの世の中に」という理念を胸に、これまでの防災の概念を覆し、新たなフェーズへと変えてゆくため、行動を起こし続けている。従来の避難訓練の実施や、防災グッズ、非常食を備えるというような、普段の生活とかけ離れた“非日常”の準備をするのではなく、「普段の生活に防災が入っている」という状態こそが防災のあるべき姿だととらえ新しい防災の概念に基づいた商品開発やプロジェクトのプロデュースを手掛けている。



(上) 防災ポーチ (下) 折り畳めるパンプス



Make a BOSAI Japan